旧国名「武蔵」にちなみ高さは634㍍。自立式電波塔としては世界一だ

東京スカイツリーを支えるひょうご

東京の下町、墨田区に5月22日、開業した東京スカイツリー。足元には、商業施設「東京ソラマチ」や水族館、プラネタリウムなどからなる街区「東京スカイツリータウン」が広がり、連日、首都圏を中心に全国各地から大勢の観光客、買い物客が訪れている。そんな新名所の誕生とにぎわいの演出に兵庫県の企業も一役買っている。634メートルと高さ世界一の自立式電波塔を支えるものづくりの技術、人々を魅了する絶品スイーツやファッション…。天空からの眺めとともに、ふるさと兵庫探しを楽しんでみるのもいいかも。さあ、スカイツリーへ。

「武蔵」にちなみ634メートル

天空へ上る前に、まずはツリーの概要や建設の経緯などをおさらいしておこう。

既に首都圏を代表する超人気スポットとなったスカイツリーだが、本来の役割は、地上デジタル放送の電波などの送信。都心部に集中する200メートル級の超高層ビルなどの影響を受けないよう、東京タワーに代わる600メートル級の新たな電波塔の建設計画が浮上した。

当初は高さを約610メートルとしていたが、自立式電波塔として高さ世界一を目指す過程で、634メートルに。覚えやすく、親しみを持ってもらおうと、現在の東京、埼玉、神奈川3都県の一部に当たる旧国名「武蔵」（むさし＝634）と語呂を合わせた。

ミナト神戸のシンボルで、高さ108メートルの「ポートタワー」のほぼ6倍。333メートルと国内で最も高い建造物だった東京タワー（高さ）の2倍近くあり、昨年11月には「世界一高いタワー」として、ギネスブックにも認定された。

「東京スカイツリー」という名称は、一般公募で選ばれ、2008年6月に正式に決まった。東武鉄道が事業主体となり翌7月には同鉄道の貨物列車ヤード跡地に着工。3年7カ月をかけ今年2月29日に完成した。タワーのみの事業費は650億円。東京スカイツリータウンが約780億円に上る。

高さ350メートルに「天望デッキ」、450メートルに「天望回廊」とそれぞれ名付けられた展望台がある。入場券（当日券：大人二千円）で上れるのは天望デッキまで。天望回廊に上るには、さらに大人で千円が必要。天候に恵まれれば、回廊から関東一円を望むことができる。

光る兵庫の技術

世界一の電波塔は太い3本の柱によって支えられている。そのうちの1本は「メード・イン・ひょうご」。神戸製鋼所加古川製鉄所（加古川市）と佐々木製鑵（かん）工業（伊丹市）が共同開発した円形鋼管だ。神鋼で造られた国内最高強度の鋼板（厚さ10センチ）を、佐々木製鑵工業にある圧力1万5千トンとこちらも国内最大級のプレス機で直径最大2・3メートルの円筒形に加工、これを縦につないで巨大な柱を造った。

強風や大地震にも耐えられるように、神鋼は生産時の温度を細かく管理。溶接方法を工夫することで、通常のビルに使われる鋼材の2・5倍近い強度を実現させた。

そんな分厚く、強度の高い鋼板を佐々木製鑵工業ではプレス機を使い、時間をかけて曲げていった。通常は1枚を円形にするが、半円に加工した2枚をつなぎ合わせた。厚さが均等でも力を加える箇所によって曲がり方も異なってくるため、プレス機を微妙に調整、試行錯誤を繰り返しながら加工作業を進めていったという。

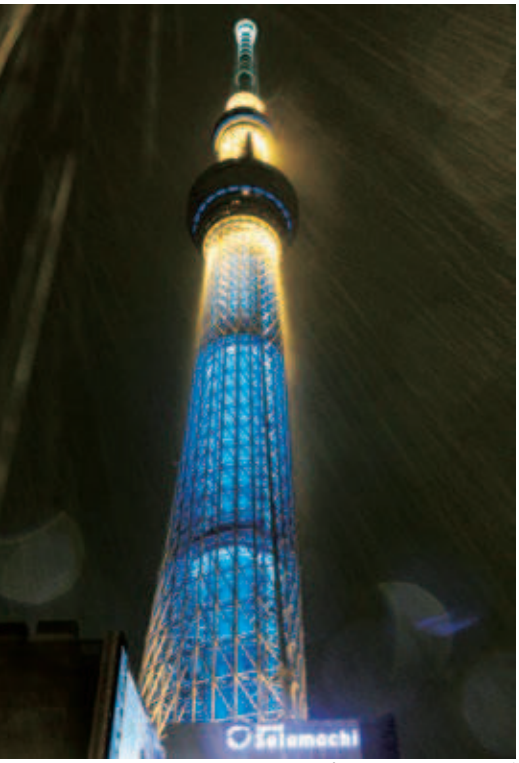
同社が鋼管を手掛けるようになったのは、10年ほど前。歴史は浅いが、六本木ヒルズ、東京ミッドタウン、丸ビルなど東京を代表する高層ビルの多くに同社製の鋼管が使われている。

第4回ものづくり日本大賞では、耐震安全性に優れた円形鋼管を開発したとして、神鋼、佐々木

展望台の最高到達点に立つ、ツリーの公式キャラクター「ソラカラちゃん」

ツリーを支える鋼管。兵庫のものづくりの技術の貢献は大きい＝伊丹市東有岡5、佐々木製鑵工業

床に設置されたのぞき窓。真下に見える街並みに足がすくむ



開業の日。ライトアップされ、雨空に浮かび上がるスカイツリー

買い物客でにぎわうソラマチ商店街。下町の風情も

製鑵工業など3社の計8人が、経済産業大臣賞（製品・技術開発）に選ばれ、今年3月に表彰された。

「新名所に当社の最先端技術が採用されたことを誇りに思います」。スカイツリー開業の日、神鋼はこんなコメントを発表した。

世界一のタワーから望む景色は、ツリーの最大の魅力だが、それを眺めることができるかどうか、すべてはお天気次第だ。5月22日の開業の日も朝からあいにくの雨模様で、「絶景を満喫した」とまでは言えなかったに違いない。

しかし、そんな場合でも来場者に天空の世界を楽しんでもらおうとさまざまな仕掛けが用意されている。その一つが雲のライトアップ。天望回廊、天望デッキそれぞれに設置された発光ダイオード（LED）投光器で、ツリーの周囲に浮かぶ雲を幻想的に照らし出す計画という。

この投光器のケースを製作したのが、加古川市に本社のある精密板金加工会社「丸十」。お披露目はまだだが、兵庫のものづくりの技術は天空ならではの光の演出にも貢献している。

兵庫＋下町で競う個性

夏休みに向け、まだまだ混雑が予想されるが、たとえ天望台に上れなくても、ツリーを見上げながらの散策やショッピング、食事などを思いっきり楽しむことができる。飲食やファッションなど1～7階を中心に312店舗が入る商業施設「東京ソラマチ」はスカイツリーを中心に東西約400メートルに広がる。地上150メートルからツリーを間近に眺めながら食事できるスペシャルダイニングゾーンなど七つのエリアで構成され、総面積は約5万2千平方メートル。商業施設としては都内でも最大規模だ。

コンセプトは「新・下町流」。エントランスゾーンには、全長約120メートルの通路両側に、食品や雑貨といった多種多様な35店舗が並ぶ「ソラマチ商店街」などがある。木造の長屋風で、店名は江戸切子を使ったあんどんで表示。ほかに江戸時代の商家の雰囲気を漂わせた土産物フロアもあり、話題を呼んでいる。

兵庫が誇る人気の洋菓子、アパレルメーカーなど10社も出店。スカイツリーや下町をイメージした商品を販売したり、東京初進出のブランドを展開したりするなど、兵庫と下町の融合で個性を競い合っている。

2階に店を構える洋菓子メーカーのモロゾフ（神戸市東灘区）は、店頭に660分の1のツリーのオブジェを飾る。イチ押し商品は、小麦パフやクランベリーの味わいが特徴のスカイツリー形チョコレート。長さ9・6センチと実物の6600分の1の大きさで、オープンに合わせて売り出した。夕方には売り切れる日もあるという人気ぶりで、同社の担当者も「製造が追いつかない」とうれしい悲鳴。他の商品の売り上げも好調といい、「第2、第3の看板商品を作りたい」と意気込んでいる。

2階には同じく東灘区が本社の総菜のロック・フィールドが、「RF1／神戸コロッケ／ベジテリア」を出す。神戸コロッケのヒット商品は、下町を代表する味、「深川めし」のライスコロッケ。アサリ風味のだしで炊いたご飯に、アサリとネギを加えて揚げたコロッケだ。オープン直後の週

スカイツリー形チョコが大人気のモロゾフ。店頭にはオブジェも

末には、目標の3・3倍の売り上げがあったという。ベジテリアでは、小松菜を使ったフレッシュジュースなども人気を呼んでいる。

製パンのドンク（神戸市東灘区）も東京1号店となるパン・スイーツ専門店「ラ・クレーム」を、創業50周年を迎えるエース（尼崎市）は、輸入食品などに力を入れたスーパー「北野エース」を、それぞれ出店した。

ファッションでは、靴・靴資材メーカーの神戸レザークロス（神戸市長田区）が進出。若い女性に人気の高いブランド「エスペランサ」で、ちりめん風の布を使ったソラマチ限定のサンダルやパンプスを販売している。店頭には人力車も。浅草などの観光スポットではおなじみの「乗り物」で演出するのは、下町らしさだ。

◇　◇

6月21日までの1カ月間に展望台へ上った人は累計で40万人を超え、スカイツリータウンを含めた全体の来場者は約581万人にのぼった。1年目の予想来場者数3200万人を上回りそうな勢いだ。

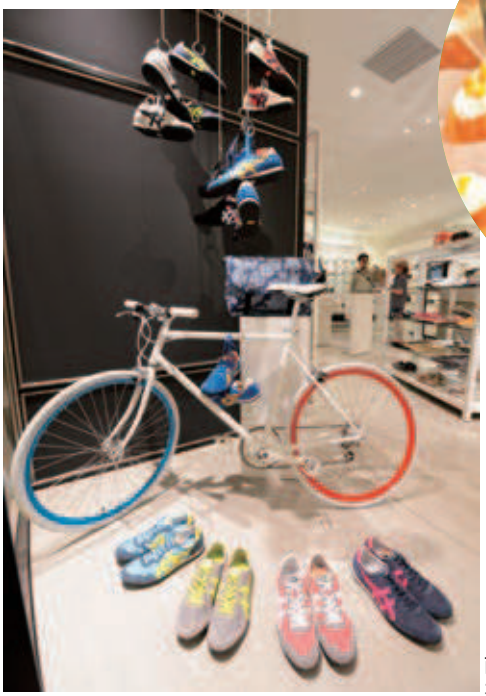
入場券は、7月10日までインターネットなどによる申し込みの完全予約制で1日9千枚前後だったが、11日からは販売方法が変わり、ネットによる個人向け先着予約販売と当日券で計1万2千枚を販売する。

夏休みを迎え、観光、ショッピング、グルメとますます盛り上がるスカイツリー人気。その一翼を兵庫の企業が担っている。

（神戸新聞東京支社編集部長　志賀俊彦）

和を意識したエスペランサのスカイツリー限定シューズ

ドンクは東京初進出のパン・スイーツ専門店でアピール



商品ディスプレーでも目を引くオニツカタイガーのショップ

アクセス
●東武スカイツリーライン「とうきょうスカイツリー」駅下車すぐ
●東京メトロ半蔵門線、都営浅草線「押上（スカイツリー前）」駅下車すぐ